

JP086 母島列島 (ははじまれっとう)

東京都：小笠原村

位置	N 26° 39′ E 142° 09′
----	----------------------

面積	2,650ha
----	---------

環境構成【火山地形（島嶼）／樹林（照葉樹林）】

母島列島は、東京から南へ約 900～1100km の太平洋上に連なる小笠原群島の南に位置し、母島、向島、平島、姉島、妹島、姪島などからなる。最大の母島の面積は約 20.21 k m²、最大標高は乳房山で約 463m であり、群島の最高峰である。島の周囲は約 58km でほとんどが急峻な崖となっている。主要な島では戦前に入植した歴史があるが、第二次世界大戦後小笠原が 1968 年に返還されるまですべての島が無人島化していた。これにともない、開墾により失われた森林がある程度回復した。



写真：小笠原自然文化研究所

しかし、戦前に薪炭材として導入されたアカギが 1980 年代になって在来植生を圧迫し始めたため、巻き枯らしなどの駆除事業が行われている。母島列島の主要な島々及びその属島が国設小笠原諸島鳥獣保護区特別保護地区に指定されている。

選定理由

A1	メグロ
----	-----

A2	カラスバト・メグロ
----	-----------

保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（小笠原群島）、国立公園（小笠原）、自然環境保全地域、保護林

保全への脅威

- ・漁業による混獲（現在の小笠原漁業は、地域開発された、たて延縄（カジキマグロ）であり、大型海鳥等の混獲の危険性が非常に低い。今後、クロアシアホウドリが増加した場合に、他県船の横延縄漁の影響が懸念される。）
- ・東南海地震時の津波、西之島の山体崩壊時の津波、小笠原近海地震の津波、硫黄島にお

ける大規模火山噴火時の津波等が想定されている

- ・外来種の影響（母島南崎で、カツオドリのコロニーがネコの補食により壊滅し、その後繁殖地回復のためにネコの排除が継続されている。母島の属島では、ドブネズミが確認されており、特に、小型海鳥類等において悪影響があると思われるが実態は不明。）
- ・放射性物質の影響（過去の追跡調査から、賀島列島のクロアシアホウドリは、育雛期後半には東日本沿岸域で採餌することが明らかになっている。卵やヒナへの放射性物質の長期的なモニターが必要と考える。）
- ・中国船によるサンゴの濫獲（海洋資源の破壊として問題となっている。付随して、海洋へのゴミ投棄、無人島（海鳥コロニー含む）への上陸の懸念がある。）

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
変わらない
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境変化：
変化がある：母島属島に生息するネズミ類がドブネズミであることが判明した。
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
※列島内、外来種（クマネズミ）の生息状況が異なる。
非常に悪い（40%未満が最適の状態） 母島列島の属島に生息するネズミ族は、より海鳥類等への悪影響が懸念されるドブネズミあることが判明した。
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（環境省、林野庁、東京都、小笠原村）
内容：自然再生事業、国立公園事業、国立公園整備事業、特定外来種対策事業、種の保存法関連事業化：環境省
森林生態系保全地域における保全及び修復事業：林野庁
植生回復事業、種の保存法関連事業、希少生物保全関連事業ほか：東京都
天然記念物保護管理事業：小笠原村
※世界自然遺産となり、環境管理と外来種コントロールには約 30 の行政事業が併走している。個別民間団体の取り組みもある。
- ・ 外来種のコントロール：実施者（環境省、林野庁、東京都、小笠原村、民間団体）
小笠原ネコに関する連絡会議、東京都獣医師会（ほか）
内容：外来植物の駆除
外来動物（ネコ、ネズミ、アリ、プラナリアほか）の駆除ほか
小笠原自然文化研究所では、ネコ連絡会議に参画。

- ・環境教育活動：実施者（民間団体はじめ、多様な実施者）
内容：民間団体、行政機関ともに多様な取り組み多数
アカガシラカラスバト保全のための普及啓発イベント（あかぼっぽネットワーク）
- ・保全のための人材育成活動：実施者（民間団体はじめ、多様な実施者）
内容：民間団体、行政機関ともに多様な取り組み多数。
- ・法律制定、政策、規制：実施者（小笠原村、林野庁）
内容：民間団体、行政機関ともに多様な取り組み多数。
例：小笠原村ネコ登録条例など
- ・モニタリング調査：実施者（行政 民間団体）
内容：多種多様な主体による多様なモニタリングが実施されている
アホウドリ類標識調査（東京都）
希少鳥類の生態調査、外来鳥類の影響調査（森林総合研究所）
小笠原諸島のクロアシアホウドリ分布拡大及び標識調査、オガサワラオオコウモリ
保全研究および活動、小笠原諸島における海鳥の分布調査、外来哺乳類が海鳥類に
与える影響評価研究（小笠原自然文化研究所）
- ・経済活動を通じた保全（エコツーリズム等）：実施者（小笠原エコツーリズム協議
会、東京都ほか）
- ・その他：アホウドリ類ウォッチングの自主ルール（小笠原アホウドリ連絡会）

IBA サイトの保全に関する、地域のグループ

- ・小笠原自然文化研究所

見られる鳥

主島の母島では小笠原群島で繁殖が確認されている陸鳥のほとんどを観察することができる。小笠原の固有種で唯一絶滅をまぬがれたメグロをはじめ、固有亜種であるアカガシラカラスバト、オガサワラノスリの重要な繁殖地になっている。オガサワラカワラヒワの繁殖地は姉島など一部の島に限られている。

また、鯉鳥島など南部の属島では、カツオドリ、オナガミズナギドリなど多数の海鳥類が繁殖しており、最近になって妹島の鳥島などではクロアシアホウドリやクロアジサシの繁殖が確認されている。

留鳥	メグロ、メジロ、ヒヨドリ、イソヒヨドリ、ウグイス、ノスリ、カラスバト、カワラヒワ、トラツグミ
海鳥	カツオドリ、オナガミズナギドリ、アナドリ、クロアジサシ、クロアシアホウドリ、オーストンウミツバメ、シロハラミズナギドリ
旅鳥	ムナグロ、キョウジョシギ、ツバメチドリ、チョウゲンボウ、ゴイサギ、アマサギ、コサ

ギ、チュウサギ、アオサギ、ヤツガシラ、ハクセキレイ

関連団体・自治体・施設等

- ・小笠原自然文化研究所



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeoBase, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapnyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community